

学 校 教 育 目 標	未来へ、よりよく生きる
目 指 す 学 校 像	一人ひとりのウェルビーイングを実現する学校
重 点 目 標	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 2 自由の相互承認 自他を尊重する心の育成 3 発達支持的生徒指導によるいじめ防止の推進 4 学校を核とした地域づくりの推進 5 生徒主体の教育活動と持続可能な働き方の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【学びの質の向上に関する取組】 ＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査においては、調査教科すべてにおいて、全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○全国学力・学習状況調査において、学習に対する関心や意欲に関する質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は、国及び県平均より高い。 ＜課題＞ ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語、数学、理科とも、その教科の勉強が好きな生徒の割合は、国及び県平均と大差はないが、数学において、好きな生徒と嫌いな生徒の二極化が見られる。	・更新された一人一台端末活用した主体的・対話的で深い学びの推進 ・教科の連携による学習指導の推進	①一人一台端末を活用して、自分の考えをもつ「主体性」と、他者の考えに触れて深める「対話的な学び」を促進する。 ②調べ学習と振り返りを組み合わせた課題解決型学習を行い、情報を活用して考え直す「深い学び」を推進する。 ①カリマネデザインマップを活用して、各教科等が教科横断的な学習を実施する。 ②研究推進委員会が中心となり、他教科の指導実態を学ぶ機会を創出する。	①学校自己評価における教員アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答ポイントが3.3（R7:3.2）となったか。 ②学校自己評価における生徒アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答をした生徒の割合が90%以上となったか。 ①各教科等が、他教科との連携による学習指導を計画的に実施し、その事例が拡大したか。 ②学校自己評価における教員アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答ポイントが3.1（R7:3.0）となったか。					
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 ＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいともいますか」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均と比べ高い。 ＜課題＞ ○いじめやSNSトラブルはゼロではない。 ○不登校生徒への支援に対し、教職員が人権尊重の観点から、識見を磨き続けていかなければならない。	・発達支持的な生徒指導への転換 ・校内生徒指導、教育相談体制の充実	①日々の教職員による生徒への挨拶、声かけ、励まし、称賛、対話、授業や行事等を通した個と集団への働きかけを大切にする。 ②人権教育や市民性教育を推進する。 ①SoLaの一むを活用して、全ての子どもの居場所をつくる。 ②ボランティア相談員を活用して、多様な子どもの支援を行う。	①全ての生徒を大切に、人格を尊重して、自己理解力や自己効力感、他者理解力等を育成できたか。 ②学校自己評価における教員アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答ポイントが3.3（R7:3.2）となったか。 ①学校自己評価における生徒アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答をした生徒の割合が、90%以上となったか。 ②ボランティア相談員を活用したか。					
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 ＜現状＞ ○多くの生徒が地域に出ていき、地域の中で様々な活動を通じて学んでいる。 ○地域の方々が、学校で、学校への協力や奉仕活動を通じて、地域が繋がっている。 ＜課題＞ ○より地域とともにある学校づくりを進めるために、学校という器の中で、地域の方が自己実現を図る機会を創出することを課題としたい。	・学校、家庭、地域が協働するコミュニティ・スクールの充実、発展 ・積極的な情報発信と、教育活動参観機械の設定	①学校運営協議会での熟議を深め、具体的な活動を展開する。 ②学校、家庭、地域の三者が、生徒を当事者であるという自覚をもち、それぞれができることを行う。 ①学校 Web ページの適宜更新や、学校だよりの発行により学校情報を広く、積極的に公開する。 ②地域の方が学校に来たくなる仕掛けをつくる。	①学校運営協議委において、目指す子ども像、目指す地域像について熟議し、それを学校、家庭、地域で共有できたか。 ②さいたま市コミュニティ・スクール成長モデルが活用できたか。 ①学校自己評価における保護者アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答をした保護者の割合が、95%以上となったか。 ②具体的な仕掛けができたか。					
4	【教育環境の整備に関する取組】 ＜現状＞ ○校舎リフレッシュ工事が完了し、制限がなく、きれいな環境で学習活動が展開されている。 ○床面誘導サイン等の新設により、防犯体制が整備されてきている。 ＜課題＞ ○学級増により、特別教室から普通教室への転換が必要である。 ○職員室やトイレなど、教育環境、労働環境として改善が必要な部分が存在する。	・施設、設備の安全確保と適宜適切な対応 ・美しく安全な環境の維持、実現に、主体的に取り組む生徒の育成	①月例安全点検、管理職による毎日の安全点検を実施し、適切な対応を遂行する。 ②管理職と事務職員、学校と市教委と連携し、計画的に環境整備を行う。 ①師弟同行による清掃活動や、生徒委員会が中心となった活動により、安心、安全で、きれいな環境を維持する。 ②環境教育、掲示教育を推進し、管理された清潔な環境を維持する。	①施設、設備の瑕疵により、生徒の教育活動に影響が出なかったか。 ②学校自己評価における生徒、保護者アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答をした保護者の割合が、90%以上となったか。 ①学校自己評価における教員アンケートにおいて、関連項目の肯定的な回答ポイントが3.2（R7:2.9）となったか。 ②生徒委員会の活動により、生徒の環境維持に関する意識が高まったか。					
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 ＜現状＞ ○自主的勉強会の開催、教育関連書籍や、研修会、教育関連イベントの紹介など、学び合い、高め経っていくための環境は充実している。 ○職員の経験や所属、役割に基づいた OJT が進められている。 ＜課題＞ ○学び続けることの重要性や、そのための環境整備について、さらなる共通理解が必要である。	・学びとチャレンジを奨励する組織の醸成 ・健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	①今年度の校内研修について十分理解し、サポート体制を整えたうえで、計画的に校内研修を実施する。 ②様々な学びの機会を提供、紹介する。 ①ティーチャーズ スピリットを示し、考え方、目標、情報が共有され、チームとして教育活動を展開する。 ②「微差は大差」。カエル会議を実施し、積極的に学びに向かうことができる環境を整備する。	①教職員が、個々の研修計画通りに研修が進められたか。 ②学びの機会の提供、照会がされ、参加する教職員が増えたか。 ①職員の同僚性や協働性を高めることができたか。 ②働き方改革が推進され、学びの機会の提供、紹介とも合わさり、教職員が学びに向ける時間を増やすことができたか。					

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組